

長寿科学の振興を通じ、生きがいがあり、 長生きを喜べる長寿社会を実現してまいります。

理事長挨拶



大島 伸一

理事長を務めることになり、皆様方に御挨拶を申し上げるとともに、あらためて、長寿科学振興財団に求められるもの、私の役割とは何かについて考えてみました。当財団が発足したのは平成元年で、ナショナルセンターである国立長寿医療センター（当時）の設立を想定して、それを支援するための財団として設立されたものと理解しています。

来るべき高齢社会に向け、どのような問題・課題が生じるのか、それに対しどのように対応してゆけばよいのか、国としてすでに準備を進めていたものあり、現在の日本、世界の状況を考えると、諸先輩方の慧眼に驚かされます。六番目のナショナルセンターとして国立長寿医療センターが設立されたのは平成16年で、常陸宮殿下妃陛下、厚生労働大臣、愛知県知事らをお迎えして開設記念式典が催されました。初代の総長として選任された私が、当財団と深く関係するようになったのはこの時からです。

国立長寿医療センターは、平成22年に独立行政法人となりましたが、今でも国立の名称が残っているように、国民のためにというセンターの使命は変わらず、政策医療への提言などを主要な使命としていることに変わりはありません。因みに、現在の正式の名称は、平成27年から国立研究開発法人国立長寿医療研究センターとなっています。ナショナルセンターの独立行政法人化とともに、財団と国立長寿医療研究センターの関係は法

的には変わりましたが、両者が協力して高齢問題に取り組むという使命や目的は変わっていないと考えています。

すさまじい勢いで高齢化の進んでいる我が国で、財団に求められていることは何か。認知症とかフレイルなど、老化とともに進展する人の肉体的、精神的变化をはじめ、高齢者が増えることにより生ずる社会の変化、生活の変化にどう対応してゆけばよいか、人類が経験したことなく、どこにも答えのないこれらの問いにどう財団は立ち向かえばよいのか。

東日本大震災や豪雨による水害等では、多くの高齢者が亡くなりました。高齢になれば虚弱化するといえばそれまでですが、自力で生活できないという意味では、高齢者よりも乳幼児の方がはっきりしています。乳幼児の場合は、親と共に生活していることもありますが、親が必死になって守ります。老々・独居が当たり前の居住形態では、高齢者を守るのはますます難しくなるでしょう。

また、新型コロナウイルス感染症の流行でも死者で圧倒的に多いのは高齢者です。諸外国ではICU等での救命機器の使用の優先度を決めなくてはならないなどといった事態まで生じているようですが、そのような時に高年齢という要因がどのように評価されるのか。高齢者にとって安全で住みやすい高齢社会とはどんな社会なんだろうかと考えざるを得ません。

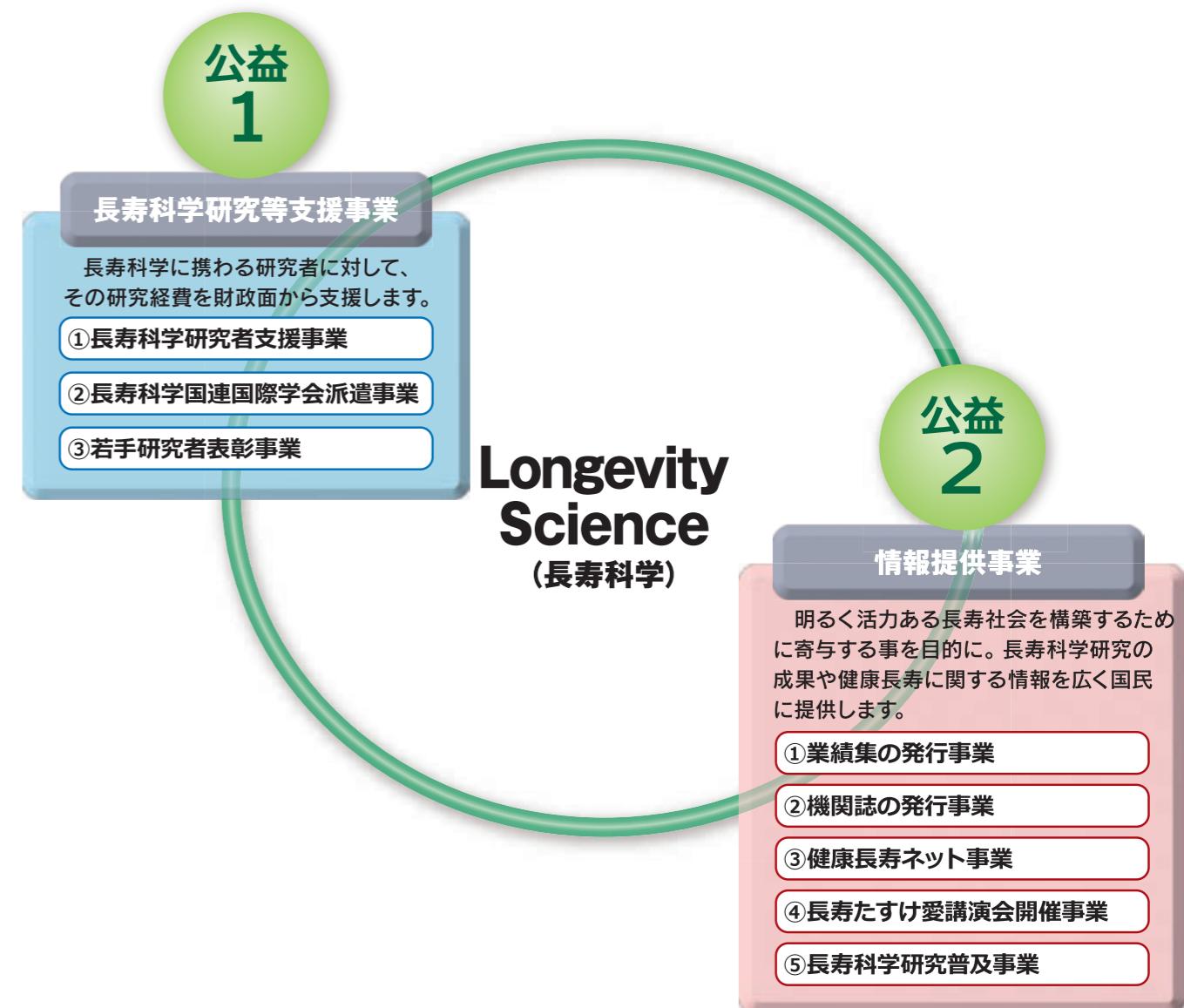
私は「長生きを喜べる社会」という言葉が好きでこれまでにも何度も使わせてもらっていますが、この言葉は、小泉純一郎元首相が二期目の所信表明演説で使用された言葉です。小泉元首相は「長生きを喜べる社会」とはどんな社会なのか、その時もその後も詳しく触れることなく政権を終え、私には不満でしたが、實際にはその答えは當時も今も誰も解っていないというのが正解でしょう。

日本に生まれ育ち、そして老い死んでゆく、より多くの方が人生を終えるときに、いろいろあったが「長生きしてよかった」と言えるような社会とはどんな社会なのか。当財団がその答えの一端でも示すことに貢献できればと思っています。よろしくお願ひ申し上げます。

長寿科学は、長生きを喜べる長寿社会づくりの基盤となる学問です。

老化メカニズム（人はなぜ老いるのか）の解明、高齢者特有の疾患の原因解明と予防・診断・治療、さらに高齢者の社会的・心理的問題の研究等、高齢者や社会長寿に関し、自然科学から人文社会科学に至るまでの幅広い分野を総合的・学際的に研究する学問を「長寿科学」と呼びます。

長寿科学に関する 調査研究・研究の助長奨励・研究成果の普及を行うため 2分野の公益事業 を展開しています。



長生きを喜べる長寿社会実現研究支援について

●長生きを喜べる長寿社会実現研究支援の概要

公益財団法人長寿科学振興財団（以下「当財団」という）は、平成元年（1989年）設立から「明るく活力ある長寿社会」を構築するために、長寿科学研究に携わる研究者への助成事業を通じ長寿科学を振興し、人々の健康と福祉の増進に貢献してまいりました。設立から30数年が経ち、医療技術の発展、社会保障制度の整備、生活に関わるいろいろな技術の革新などにより、今や我が国の男性の平均寿命は81.64歳、女性は87.74歳となりました。いわゆる「人生100年時代」が現実化しつつあります。

一方、高齢化には、人体心身諸機能の低下は生物学的に必然であり、さらに高齢者特有の疾患の発生と共に自立不全に陥ることも避けられません。また、介護など大きな課題がのしかかっています。他方、我が国の敗戦後の急激な高度経済成長による都市部への人口集中に伴う家族制度の崩壊や地方経済の衰退、ライフスタイルの変化による少子化、そして生産労働人口減少など長寿社会を支えていくためには逆行する種々の現象が台頭してきました。そこで当財団は令和元年（2019年）度に新しいビジョンとして「長生きを喜べる長寿社会の実現～生きがいのある高齢者を増やす～」を掲げ、長生きを喜べる・生きがいのある人生とするための課題解決となる研究開発・社会実装を行い、政策提言に向けた事業をすすめることといたしました。

公益
1

長寿科学研究等支援事業

①長寿科学研究者支援事業

長寿科学研究に携わる研究者の育成と長寿科学の振興を図ることを目的に、長寿科学に貢献できるすべての分野の研究活動を幅広く支援しています。

平成20年度から令和3年度まで155件3億2,475万円の研究費を助成しました。

令和4年度から「長生きを喜べる長寿社会の実現～生きがいのある高齢者を増やす～」を主課題として掲げ、その実現のために課題解決となる研究開発・社会実装を行い、政策提言に向けた助成をすすめています。

「4つのステージ」を設け、多様な段階から開始するプロジェクトを支援します



Aステージ 探索研究

課題解決方法のアイデアの実現性・実用化が可能かどうか検証を目的とする

年間上限 1,000万円
最長2年間

課題解決方法の試作版の完成
外部資金の調達の実現

Bステージ 実装研究

課題解決方法を実験的に実装・検証を進め、事業化の準備を目的とする

年間上限 3,000万円
最長3年間

Cステージ 社会実装

事業を本格的に進め、持続可能な仕組みの確立を目的とする

年間上限 3,000万円
(助成率は総事業費の3分の1まで)
最長3年間

持続可能な事業の仕組みの確立
全国展開・海外展開、他社との協働による新規事業の創出など

Dステージ 展開

全国展開・新規事業創出につながることを目的とする

年間上限 2,000万円
(助成率は総事業費の10分の1まで)
最長2年間



②長寿科学関連国際学会派遣事業

長寿科学研究に携わる若手研究者の育成を目的に、国内で優れた研究成果をあげた若手研究者を、海外で開催される関連学会で、研究成果を発表するための渡航費（1件につき最大40万円）を助成します。

平成22年度から令和2年度まで110名、総額2,653万円の渡航費を助成しました。

*令和3年度から新型コロナの影響および、財団事業の見直しのため本事業は休止しています。



③若手研究者表彰事業

長寿科学研究に携わった若手研究者の研究活動を幅広く支援することにより、若手研究者の育成と長寿科学の振興を図ることを目的として、優れた研究成果をあげた研究者に対し「長寿科学賞」を贈呈するとともに、副賞として研究費100万円を交付します。

平成12年度から令和2年度まで67名の若手研究者を表彰し、副賞として研究費を総額3,470万円交付しました。

*令和3年度から新型コロナの影響および、財団事業の見直しのため本事業は休止しています。

公益
2

情報提供事業



①業績集の発行事業

長寿科学研究の学術的研究成果の中で、社会のニーズにあったテーマを定め、平成10年から毎年1回、医療従事者向けに編集した研究マニュアルを業績集として発行しています。

平成30年度以降の業績集は当財団のHPにて公開しています。



平成30年度	認知症の予防とケア
令和元年度	高齢者の食事と栄養、口腔ケア
令和2年度	フレイル予防・対策: 基礎研究から臨床、そして地域へ

*令和3年度から財団事業の見直しのため本事業は休止しています。



②機関誌の発行事業

機関誌「Aging & Health (エイジングアンドヘルス)」を年4回（春、夏、秋、冬）財団HPにてPDFおよび健康長寿ネットにて配信しています。

【誌面内容】

- ・長寿に関する最新の話題を特集
- ・高齢になっても活躍されている著名人へのインタビュー
- ・各地域での長寿に関する取り組み紹介
- ・長寿科学に関する最新論文情報

など

平成30年夏号以降の機関誌は当財団のHPにて公開しています。



③健康長寿ネット事業

健康長寿ネットは厚生労働省の助成を受けて、高齢期を前向きに生活するために必要な情報を提供し、日本の健康長寿社会の発展に貢献しようとの目的で作られた公共・公益のWEBサイトです。

「健康長寿とは」「高齢者の病気」「高齢者を支える制度とサービス」に関する情報や専門家による解説が1,000項目を超えて項目ごとに掲載しています。また、高齢者やその家族が、サイト上でいつでも運動機能や栄養状態、口腔機能などの生活機能状態をチェックすることもできます。



健康長寿とは

自分でできる健康長寿のための情報をご紹介します。



掲載コンテンツ

- 長寿と社会
 - 老化
 - 健康と運動
 - 身体活動・健康法
 - 身体活動・トレーニング法
 - 高齢者と食事
- など30項目掲載



高齢者の病気

高齢者に多い病気・症状を分かりやすくご説明します。



掲載コンテンツ

- | | |
|---------------|----------|
| ● サルコペニア・フレイル | ● 感染症 |
| ● 老年症候群 | ● 白内障 |
| ● 認知症 | ● 緑内障 |
| ● 骨粗鬆症 | ● 高齢者と薬 |
| ● 脳血管疾患 | ● 高齢者の看護 |
| ● 嘸下性肺疾患 | など48項目掲載 |



高齢者を支える制度とサービス

介護保険制度や利用できるサービスなどをご紹介します。



掲載コンテンツ

- 介護保険
 - 施設サービス
 - 介護予防サービス
 - 地域支援事業
 - 高齢者の人権
 - 在宅介護
- など11項目掲載



パソコン、スマートフォンで介護予防のための生活機能チェック

25問の質問に答えると、運動機能、栄養状態、口腔機能、生活機能、閉じこもり、認知症、うつ等の7つの生活機能状態をチェックすることができます。また、日常生活へのアドバイスが表示されます。



インタビュー・対談・特集・研究情報

機関誌で取り上げた記事をご紹介しています。



- 高齢になつてもなお活躍されている方々のインタビュー 28記事掲載
- 長生きを喜べる長寿社会の実現 など特集 32項目掲載



エッセイ

機関誌などで取り上げたエッセイをご紹介します。



機関誌で掲載しましたエッセイをウェブページでご覧いただけます。

- 老いをみるまなざし
- 訪問看護師から「老い」をみると
など 16項目掲載



無料メールマガジンの配信



メールアドレスを登録いただいた方に以下の内容をEメール(HTML形式)にて無料で毎月初旬に配信いたします。

【メールマガジンの配信内容】

- ・健康長寿ネットの更新情報・長寿科学研究成果ニュース・財団主催のイベントのお知らせ
- ・財団発行の刊行物のお知らせ・日々に役立つ健康情報(おすすめコンテンツ)・Q&Aコーナー
- ・その他財団からのお知らせ

④長寿たすけ愛講演会開催事業



明るく活力のある長寿社会の構築を参加者と共に考え、毎日の生活の中でできる介護予防や健康づくりを目的に、各都道府県や公共団体と共同して全国各地で講演会を開催しています。平成17年度から令和元年までに34箇所で開催いたしました。

*令和4年度から財団事業の見直しのため本事業は休止しています。

⑤長寿科学研究普及事業



国立研究開発法人 国立長寿医療研究センターとの連携により、毎年テーマを定め、長寿科学研究に関する国際シンポジウムを開催しています。

令和3年 認知症のバイオマーカー研究

令和2年 新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止

令和元年 炎症と認知症

長寿科学振興財団の設立

政府は、平成元年12月に「高齢者保健福祉推進十か年戦略ゴールドプラン」を打ち出しました。この十か年戦略において、かねてより昭和天皇御長寿御在位60年慶祝事業の一環として検討されていた「国立長寿医療研究センター」の設置及び「長寿科学振興財団」の設立推進の方針が決定され、同年、当財団が設立されました。

●高齢者保健福祉推進十か年戦略（抜粋）「6長寿科学研究推進十か年事業」

- (1) 研究基盤充実のための国立長寿医療研究センターを設置するとともに、長寿科学研究を支援する財団を設立する。
- (2) 基礎分野から予防法・治療法の開発、看護・介護分野、更に社会科学分野までの総合的な長寿科学に関するプロジェクト研究を実施する。
- (3) これらにあわせて、将来の高齢化社会を担う児童が健やかに生まれ、育つための施策を推進することとし、とりわけ、生涯の健康の基礎となる母子保健医療対策の一層の充実について中長期的視野に立って検討する。



ロゴマークの由来

当財団は、昭和天皇御長寿御在位60年慶祝事業のひとつとして設立されました。また、昭和天皇の一周年祭に当たり、天皇陛下、皇太后陛下から、長寿科学研究推進に資する思し召しにより、昭和天皇の御遺産から当財団に対して御下賜金が賜与されました。

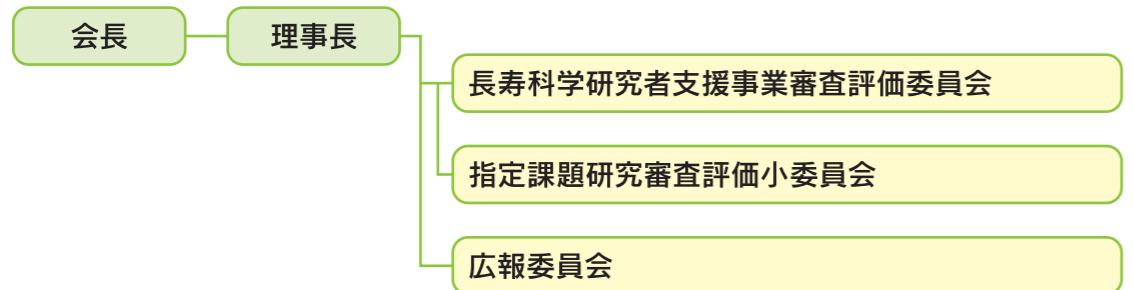
こうした経緯から、昭和天皇の宮中での御印が「若竹」でありましたことに因み、いつまでもみずみずしく若々しい心を象徴するものとして平成9年に作成されました。

組織

組織図



推進体制



基本財産造成状況

令和4年6月30日現在(単位:千円)

一般募金	愛知県	財界等
285,825	2,100,000	2,074,339
		4,460,164

沿革

平成元年12月	<ul style="list-style-type: none">・政府は長寿科学研究推進事業として、センターの設立・支援財団の設置等を決定・財団法人長寿科学振興財団設立・初代会長 鈴木 永二・初代理事長 佐分利 輝彦 就任・政府は「高齢者保健福祉推進十か年戦略」（ゴールドプラン）を策定
平成2年1月	<ul style="list-style-type: none">・昭和天皇1周年祭に当たり、天皇・皇太后陛下より昭和天皇の御遺産から御下賜金の賜与
平成2年4月	<ul style="list-style-type: none">・長寿科学研究センター創設準備室発足
平成6年12月	<ul style="list-style-type: none">・政府は、現行の「高齢者保健福祉推進十か年戦略」を全面的に見直し「新ゴールドプラン」を策定して、高齢者の介護対策の更なる充実を図ることとした
平成7年6月	<ul style="list-style-type: none">・二代会長 永野 健 就任
平成7年7月	<ul style="list-style-type: none">・長寿医療研究センター運営開始
平成9年10月	<ul style="list-style-type: none">・財団本部を、あいち健康の森健康科学総合センター内へ移転・旧本部は、東京事務所に組織変更
平成10年10月	<ul style="list-style-type: none">・財団設立10周年記念式典挙行
平成11年12月	<ul style="list-style-type: none">・政府は高齢者保健福祉施策の一層の充実を図るため、「ゴールドプラン21」を新たに策定
平成12年1月	<ul style="list-style-type: none">・二代理事長 大谷 藤郎 就任
平成12・年3月	<ul style="list-style-type: none">・国民的アイドルであった故成田きんさんの御遺族より、小渕総理大臣を通して御寄附を受納
平成13年4月	<ul style="list-style-type: none">・三代会長 奥田 碩 就任・天皇陛下より、香淳皇后の御遺産から御下賜金の賜与・政府は、「メディカル・フロンティア戦略」をスタート
平成15年10月	<ul style="list-style-type: none">・三代理事長 小林 秀資 就任
平成16年3月	<ul style="list-style-type: none">・国立高度専門医療センター（ナショナルセンター）として、国立長寿医療センター開設
平成17年4月	<ul style="list-style-type: none">・「健康メディカル・フロンティア戦略」がスタート
平成18年6月	<ul style="list-style-type: none">・四代会長 柴田 昌治 就任
平成19年4月	<ul style="list-style-type: none">・「新健康フロンティア戦略」がスタート
平成22年3月	<ul style="list-style-type: none">・四代理事長 祖父江 逸郎 就任
平成22年6月	<ul style="list-style-type: none">・五代会長 渡辺 捷昭 就任
平成23年3月	<ul style="list-style-type: none">・東京事務所を本部へ統合
平成23年4月	<ul style="list-style-type: none">・公益財団法人へ移行
令和元年12月	<ul style="list-style-type: none">・財団設立30周年記念式典挙行
令和2年7月	<ul style="list-style-type: none">・五代理事長 大島 伸一 就任・名誉理事長 祖父江 逸郎 就任

評議員名簿

令和4年6月30日現在

大熊 由紀子	(国際医療福祉大学大学院教授)	(50音順)
河合 忠一	(京都大学名誉教授)	
伍藤 忠春	(社会福祉法人全国心身障害児福祉財団理事長)	
下田 智久	(公益財団法人日本健康・栄養食品協会顧問)	
袖井 孝子	(お茶の水女子大学名誉教授 東京家政学院大学客員教授)	
多田 宏	(前公益財団法人中国残留孤児援護基金理事長)	
鳥羽 研二	(東京都健康長寿医療センター理事長)	
柵木 充明	(公益社団法人愛知県医師会会長)	
森岡 恭彦	(日本赤十字社医療センター名誉院長)	

評議員 計9名

役員名簿

令和4年6月30日現在

会長 非常勤 渡辺 捷昭	(公益財団法人長寿科学振興財団会長)	(50音順)
理事長 " 大島 伸一	(国立長寿医療研究センター名誉総長)	
理事 " 荒井 秀典	(国立長寿医療研究センター理事長)	
" " 井口 昭久	(愛知淑徳大学健康医療科学部教授)	
" " 井藤 英喜	(東京都健康長寿医療センター名誉理事長)	
" " 江澤 和彦	(公益社団法人日本医師会常任理事)	
" " 大内 尉義	(国家公務員共済組合連合会虎の門病院顧問)	
" " 加賀美 幸子	(千葉市男女共同参画センターナンバーギャラリー館長)	
" " 児玉 善郎	(日本福祉大学学長)	
" " 斎藤 英彦	(国立病院機構名古屋医療センター名誉院長)	
" " 佐藤 真一	(大阪大学名誉教授) (公益財団法人日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団理事)	
" " 鈴木 みづえ	(浜松医科大学臨床看護学講座教授)	
" " 田代 俊孝	(仁愛大学学長)	
" " 辻 哲夫	(東京大学高齢社会総合研究機構) (一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会医療経済研究機構理事長)	
" " 濱口 道成	(先進的研究開発戦略センター(S C A R D A)センター長) (科学技術振興機構(J S T)顧問)	
" " 松本 一年	(愛知県新型コロナウイルス感染症対策担当顧問) (西尾市民病院リハビリテーション科部長)	
" " 柳澤 信夫	(一般財団法人全日本労働福祉協会会长)	

理事 計17名

監事 非常勤 遠島 敏行	(公認会計士 税理士)
" " 村上 隆男	(サッポロホールディングス(株) 名誉顧問)

監事 2名

ご寄附のお願い

本財団は、長寿科学に関する調査研究の実施・研究の助長奨励・研究成果の普及を促進し、もって国民の健康と福祉の増進に寄与することを目的とします。

寄附金の用途

1.本財団の基金として積み立て、下記の事業に活用させていただきます。

- (1) 長寿科学に関する助成
- (2) 長寿科学研究に関する国際協力及び国際交流
- (3) 長寿科学研究者の育成
- (4) 長寿科学研究に関する情報の提供
- (5) 長寿科学研究に関する内外諸団体との連絡及び協力

2.指定寄附金として目的を達成するため、指定研究事業に活用させていただきます。

寄附の方法について

●つながる募金



SoftBankのスマホから
ご利用料金とまとめて寄附



どなたでも可能
クレジットカードで寄附



●銀行振込(寄附金振込先口座)

金融機関:三菱UFJ銀行(0005) 大府支店(344)

種別:普通預金 口座番号:1762379

口座名義:公益財団法人長寿科学振興財団 基本財産受入口 理事長 大島伸一

●郵便振替用紙(振込手数料不要)

当パンフレットに貼付の「郵便振替用紙」(振込手数料不要)をご利用下さい。

ご不明な点などございましたら下記までご連絡下さい。

《連絡先》総務企画課

TEL:0562-84-5411 FAX:0562-84-5414 E-mail:soumu@tyojyu.or.jp

当財団は、所得税法(所得税関係)、法人税法(法人税関係)および租税特別措置法(相続税関係)上の「特定公益増進法人」です。当財団への寄附金は、寄附金控除、損金算入等についての税法上の特典が受けられます。

寄附の詳細は、財団ホームページ(<https://www.tyojyu.or.jp>)をご覧ください。



長生きを喜べる長寿社会の実現

~生きがいのある高齢者を増やす~



財団HPはこちらからご覧ください。

<https://www.tyojyu.or.jp>

長寿科学振興財団

検索



QRコードから簡単に
アクセスできます

所在地



〒470-2101

愛知県知多郡東浦町大字森岡字源吾山1-1
あいち健康の森健康科学総合センター 4F
(あいち健康プラザ内)

TEL:0562-84-5411 FAX:0562-84-5414
E-mail:soumu@tyojyu.or.jp

〈アクセス〉

- ・JR名古屋駅から
JR東海道本線(上り)「大府駅」下車
- ・JR大府駅西口から知多バスで乗車
「長寿医療センター・森岡台循環」または「げんきの郷」行き
- ・「あいち健康プラザ」下車



表紙の写真:於大公園の竹林(愛知県東浦町提供)
徳川家康の生母「於大方」にちなみ緒川の地に「於大公園」を整備し、
毎年春には「於大まつり」を催している。



公益財団法人長寿科学振興財団

令和4年度版



公益財団法人長寿科学振興財団

The Japan Foundation for Aging and Health